

# 兜の名称



## 竜頭(りゅうず)

竜の形をした前立物です。最近では付いている兜が少なくなってきましたが、縁起が良いことやかっこよさから好まれるお客様も多いです。



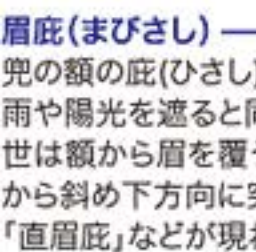
## 星兜(ほしかぶと)

平安時代中期ごろに生まれた兜の一つで、鉢を形成する鉄板を接ぎ留める鋸を、鉢の表面に出したものです。鋸の頭を星と呼ぶことからその名がつけられました。



## 覆輪(ふくりん)

金・銀・錫(すず)などで縁取りし、飾りや補強としたものです。



## 眉庇(まびさし)

兜の額の庇(ひさし)の名称です。雨や陽光を遮ると同時に額を守る役割も担っており、中世は額から眉を覆うように作られていましたが、後に鉢から斜め下方向に突き出た「出眉庇」、垂直に突き出た「直眉庇」などが現れました。



## 綴(しころ)

兜の鉢に付けられた頸部を守る部分です。左右後ろに垂らした鉄板や小札を紐で綴ったものです。



## 鍬形(くわがた)

鍬をかたどったところから由来します。兜の前面につけ威厳を添える前立物です。金属でできたものが多く「長鍬形」「大鍬形」「三つ鍬形」などたくさんの種類があります。 ※1

## 八万座(はちまんざ)

兜の天辺の穴の周縁を飾る金物のことです。葵座・円座・菊座・裏菊座・抱座・などの座金を何重にも重ねて作ります。武士にとって兜は神聖なもので、頭頂に護神・武神である八幡様が鎮座するとして穴の周りには格式の高い装飾が施されました。



## 篠垂(しのだれ)

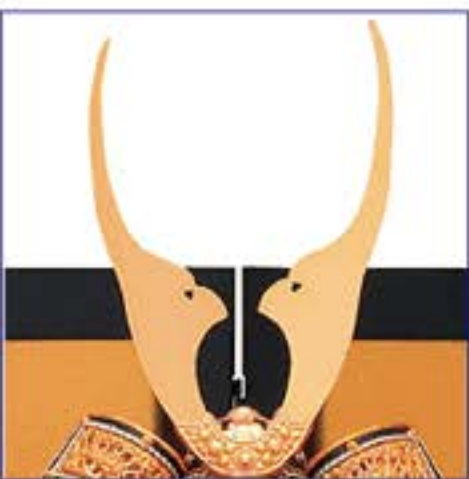
兜の八幡座から、鉢の前後または左右などへ数本垂らした筋金です。古いものは剣形で鉄製の補強材としてつけられましたが、のちに銀杏形(いちようがた)や蜥蜴頭(とかげがしら)になり金銅や銀胴で作られ装飾になりました。



## 吹返(ふきかえし)

兜の左右両端から正面に向けて折り返した部分で、源平合戦や南北朝などでは弓矢の脅威から大きく丈夫な吹返でしたが、視界を広げる効果もあいまって吹返は小さくなったと思われます。

## 鍬型(くわがた)の種類 (※1)



貫前鍬形  
(ぬきさきくわがた)



弦月前立  
(げんげつまえたて)



長鍬  
(ながくわ)



大鍬  
(おおくわ)



三つ鍬  
(みつくわ)